第３学年　社会（災害安全）　　　　　　　　　　　　　　　　　場所：３年２組教室

消防の仕事と人々の協力

指導者　　坂本　大樹

　　ゲストティーチャー（ＧＴ）　　消防団の方

**１　目標**

・火事が身近な災害であることに気付く。

・消防署や関係機関は、地域の人々と協力していることについて理解する。

・安全なくらしについて、自分たちでできることについて考え、話し合う。

**２　新学習指導要領との関連**【社会】〔第３学年〕内容（３）－ア（ｱ）

（ｱ）消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。

**３　単元について**

３年生の社会科「消ぼうの仕事と人々の協力」では、消防署をはじめとする関係機関や地域の人々の諸活動を具体的な事例を通して学習する。その際、地域を火災から守りたいという消防団などの地域の方の思いに触れ、そこから防火について自分たちの生活を振り返り、自分たちにできることを考えさせたい。火災につながる物を使わないことではなく、使う上でどのようなことに気を付けるか、また火事の原因で最も多い放火をされないために自分にできることを考える。これは、安全教育の「危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育てる」に通じるものである。

**４　主題に迫るための手だて**

・火災の恐ろしさに気付き、身近に起こり得る災害であることをとらえられるような資料を提示する。

・消防署見学や消防団の方の話を聞いて学習し、火災から身を守るにはどのようなことに取り組めば

いいかを考える時間を確保する。

**５　指導計画　（９時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ☆ねらい　○学習活動 | ◎安全教育の視点に立った留意点　■評価 |
| １  ２ | ☆小単元の学習計画を立てる。  ○資料の読み取りを通して火災の恐ろしさに気付くとともに、火災や消防について調べたいことを明らかにし、学習問題を設定する。 | ◎火災を身近に感じられるような資料を提示する。  ■火災の危険性について考えている。 |
| ３  ４  ５ | ☆消防署見学に行き、火事が起きた際の消防署の対処の仕方や、救急隊の仕事、火災防止の取組などについて知る。  ☆消防署の役割についてまとめる。 | ◎消防署の取り組みについて知るために、消防署を見学し、聞き取った内容をまとめられるようにする。  ■火災に対する消防の取組や工夫について理解している。 |
| ６ | ☆消防団の方の話を聞き、火災から人々のくらしを守る消防団の仕事や工夫・努力を知る。 | ◎ＧＴから直接話を聞く機会を設ける。  ■火災に対する消防団の取組や思いを理解している。 |
| ７ | ☆学校の消防設備を調べ、配置図にまとめ各設備の役割について話し合う。 | ◎学校の消防設備の配置図を作成し、それをもとに話し合いをさせることで、設備の役割を明確にする。  ■学校の消防設備の役割について理解している。 |
| ８ | ☆これまでの学習のまとめをする。 | ■これまでの学習を踏まえて、火災の危険性、消防署や消防団の取組や思いをまとめている。 |
| ９  (本時) | ☆消防団の方の話やこれまでの学習で、防火の観点から自分に何ができるか、何をしていけばよいかを考える。 | ◎防火の観点をより意識させて取り組ませる。  ■火災の原因や危険性、その対処法について考えている。 |

**６　本時の展開 （９／９）**

**（１）ねらい**

　　・火災が起こる原因について考え、身近な物が原因で火災が発生することに気付く。

・火災の危険性を知り、火災を回避するための行動、取組を考えることができる。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点  ■評価（評価方法） |
| ○前時の学習でまとめたことを振り返り、消防署や消防  団の方の思いを確認し、本時の課題を知る。  火事を防ぐために、自分が何をすればよいか考えよう。  ○火災につながる物について考える。  ・たばこ、ガスコンロ、ストーブ、マッチ、  ライター、アイロン、コンセントなど  ○火災の原因となる危険な状況について考える。  　・たばこ→ポイ捨て。寝たばこ。  　・ガスコンロ→火をつけたまま離れる。  　・ストーブ→スイッチを入れっぱなしにする。  　・コンセント→ほこり。たこ足配線。  　・ライター→火遊び。花火遊び。  ○危険な状況における対策（自分ができること）について考え、発表する。  ・捨てられているタバコの火に注意する。  ・ガスコンロの火を使っている間は離れない。  ・ストーブのそばに燃えるものを置かない。  ・コンセントの掃除をする。たこ足配線にしない。  ○火事の原因で最も件数が多いのが放火であることを  知り、その対策について考える。  ・家の周りに燃えやすいものを置かない。  ・あいさつをするなど、日頃から地域の人とのつながりを強め、不審な人物に火をつけさせない環境をつくる。  ○今日の学習を振り返り、まとめる。 | ◎消防署や消防団の方がどれだけ頑張っても、自分たちが協力（防火）していかなければ町の安全は守れないということを確認する。  ◎火事につながる可能性がある物の実物を提示し、自分の家でも火災の可能性があることに気付かせる。  ◎特に火災の原因となる物を消防団(ＧＴ)の方に紹介してもらう。（たばこ、ガスコンロ、ストーブ、コンセント）  ◎それぞれの物の危険な使い方があることを消防団の方に投げかけてもらう。  ◎危険な状況をイラストで示す。  ◎火事につながる物を使わないということではなく、使う上でどのようなことに気を付けるかを考えさせる。  ◎危険な状況における対策をワークシートに書かせる。  ◎ＧＴに、児童が考えた火災への原因・対策に評価・助言をしてもらう。  ◎火事の原因で最も件数が多いのが物ではなく、人（放火犯）であることを知らせ、防ぎようがないのではと児童に投げかける。  ◎消防団の方に、児童が考えた放火への対策に評価・助言をしてもらい、自分たちの行動が放火の防止に繋がることをとらえさせる。  ■火災が起こる原因や、回避するための行動について考えている。（ワークシート・発表）  ◎今日の学習を生かして、防火について考えたことをワークシートに記入させる。 |